

平成19年度 都市計画道路高知山田線道路建設工事に伴う

伏原遺跡埋蔵文化財発掘調査



記者発表 平成20年5月15日(木) 15時～
現地説明会 平成20年5月18日(日) 13時～15時

(財)高知県文化財団 埋蔵文化財センター

1. 業務委託名

平成19年度 都市計画道路高知山田線道路交付金埋蔵文化財(伏原遺跡Ⅱ)発掘調査業務委託

2. 目的

高知県が計画している都市計画道路高知山田線の工事計画区域内に所在する遺跡について、工事によって影響を受ける部分の発掘調査を行い、遺跡の記録保存を図ることを目的とする。

3. 委託者

高知県

4. 受託者

(財)高知県文化財団

5. 調査期間

自)平成19年11月29日

至)平成20年 9月30日

6. 調査区

I・II区 (平成19年12月～6月の予定 調査面積約3,000㎡)

III～V区 (平成20年 5月～9月の予定 調査面積約2,500㎡)

7. 調査協力

香美市教育委員会

8. 主な検出遺構

弥生時代後期末～古墳時代前期初頭	竪穴住居跡,土坑
古墳時代後期	竪穴住居跡,溝跡
古代	掘立柱建物跡,ピット
近世以降	ハンダ土坑,土坑,溝跡,ピット

9. 主な出土遺物

弥生土器,土師器,須恵器,陶磁器,土製紡錘車,石包丁,赤色顔料が付着したすり石,石製紡錘車,台石,石臼,鉄鏃,耳環など多量の遺物が出土しました。コンテナ(40×60×15cm)に約130箱になります。ほとんど割れてないものや少し欠けている程度のものも多く出土しています。

10. まとめ

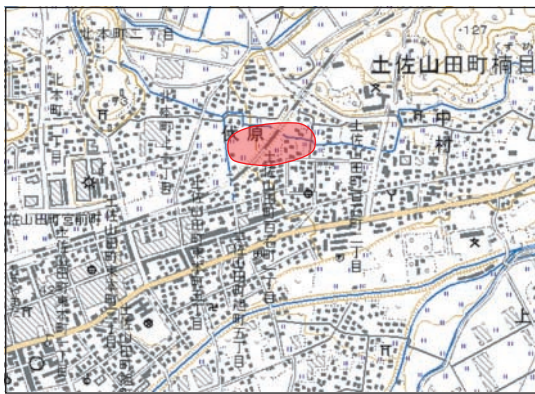
弥生時代中期末,弥生時代後期末～古墳時代前期初頭,古墳時代後期,古代,近世以降にわたる複合遺跡であることがわかりました。なお,弥生時代中期末以降は断続的に利用されています。

弥生中期末は散発的に土器が出る程度で遺構は見つかっていませんが,周辺に当該期の遺構があるもの考えられます。

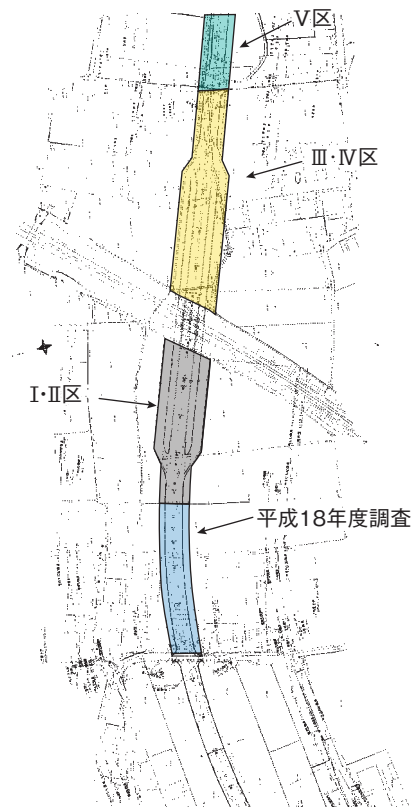
弥生時代後期末～古墳時代初頭は出土した遺物の量,検出した遺構の数から今回の調査範囲では最盛期を迎えたものと考えられます。県下でも遺跡数が増加する時期にあたり,当遺跡もそのような流れのなかで営まれた遺跡と考えられます。未調査の範囲を含めると,竪穴住居跡 30 棟ほどの中規模のムラであったと考えられ,周辺のひびのき遺跡やひびのきサウジ遺跡とともに地域社会を形成していました。ところが,この時期を過ぎると伏原遺跡からは突然に遺構・遺物が消えてしまいます。集落はどこへ移動したのでしょうか。ごく一部の遺跡を除いて,このような現象は物部川流域(香長平野・長岡台地)で見られることで,空白の時期といってもいいでしょう。

古墳時代後期になると再び集落が営まれるようになります。竪穴住居跡にはカマドが付属するなど構造的にも大きく変化します。また,古墳が築造されるなど社会的にも大きな変化がみられます。伏原遺跡周辺にも,鏡野学園前古墳,大元神社古墳,伏原大塚古墳などが築かれます。特に伏原大塚古墳は大形の方墳で,須恵質の個性的な埴輪を伴うなど独自性を持った古墳です。このような古墳を築造できるような人物が当地域に存在し周辺地域をも含めた広範囲をまとめあげていたことでしょう。当遺跡はこれらの古墳に葬られた人々を支えていたムラの一つと推定されます。

古代では掘立柱建物跡の一部になると考えられる柱穴列を確認しており,複数の建物があったようです。近世以降ではいわゆるハンダ土坑が多く見つかりました。ほとんどはペアで並んで見つかり,使用目的を考えるうえでヒントとなります。



遺跡位置図 S=1/25,000



調査区と調査範囲 S=1/4,000



I区を掘った様子



竪穴住居跡2を掘った様子



古代の土器が出た様子



弥生土器がうつ伏せの状態が出た様子



弥生土器が出た様子



赤色の顔料が付いた石器が出た様子



竪穴住居跡から弥生土器が出た様子



石製紡錘車が出た様子